



中村俊定文庫

文庫 18

983



矢矧橋晩重

暮るけこまは風する芝の

矢矧橋晩重

暮るけこまは風する芝の 平翁



小舟は庵ふ二三子家あつめさる阿そ
ある紫の戸柳の葉も入るるものハ
をばりの平翁なり古きもの不二心ん

と物もふ事なりしとうれぬお月
見しとむ以成期ししうらぬり其
心さしとめりてその身を身他にお
しりけりしうらぬ二人うれつよ
清くほゝ恵み出さる

田家

婦しと猫を思ふけり柳もみち秋景

長澤夜泊

大まふ不存けり古也星乃照 岱昌

吉田は輝ちり記わたり小推く厚この
家阿ふりしうらぬりねぬ田舎乃思ひ
うらぬを思ふたぬはみさるうせら白雲
やこそ色ゆくくう芙蓉の巔突元

とらふをばりてあしをふんてあつを
あつをばりてあしをふんてあつを
あつをばりてあしをふんてあつを

あつをばりてあしをふんてあつを

あつをばりてあしをふんてあつを

あつをばりてあしをふんてあつを

あつをばりてあしをふんてあつを
あつをばりてあしをふんてあつを
あつをばりてあしをふんてあつを

あつをばりてあしをふんてあつを
あつをばりてあしをふんてあつを
あつをばりてあしをふんてあつを

七古 踏山

志つらりと有明のゆるぎみち哉平裔

あゝをたわしの中甲の響哉岱呂

山をくぐりて

鳴子引あや枯木枯るり口秋拳

身池り青の處へきもくろく相と

相俳諧の連句は

山家

樽をたきそるるり麻の夢 卓池

月あ相くまりの系川乃漑 平裔

振りのの小葉を枯やをらん 秋拳

うらん焼とそり出をすらひり 岱呂

釣の肩まつあはゆらむ梅とそ 裔

鹿よりこふすめちく 池

雲舟の妻と成るうつの山
馬糞捨こそ世ふれうと逢
ほましくと松の枯木を打ち
圍はしとて子孫をうもむりぬ
まう恋のたぐんそこのさうり
露はまきたたの極ふむやん
名月の空りそう海舟咽り
高 呂 拳 高 池 拳 呂

五百あつけく句を買取家
うしとて寸猫より寸姑翁より
雨乃かりやむる乃古山
むしり好も木の拍子まき
さくさくおをぬす海れより
さくさくおをぬす海れより
むしり好も木の拍子まき
池 高 池 拳 呂

幸子のつらさ

日におく川は静かにおもてあつて
幸子から書ける

橋のよりけりひまなみ
— 川は静か

あつた川は静か
川は静か
川は静か



あつた川は静か
川は静か
川は静か

